

大村市在宅ケアセミナー

創生期の思い出（平成3年～8年）

—医師会主導の地域連携—

小倉リハビリテーション病院

藤田 雅章



長与専斎の旧宅：国立長崎中央病院内

長与専斎（1838～1902）

- 五教館（大村高等学校の前身）で学ぶ
- 適塾（緒方洪庵）入門・塾頭（福沢諭吉の後）
- 医学伝習所（ポンペ・マンズフェルトに師事）
- 長崎清得館の医師頭取
- 長崎府医学校
- 文部省医務局長
- 内務省衛生局長 「衛生」の言葉
- 大日本私立衛生会（現日本公衆衛生協会）会頭

内容

- 私の地域リハビリテーションの軌跡（自己紹介）
 - 大村市在宅ケアセミナー
 - 設立経過
 - 大村市介護用品リサイクル活動
 - 講演会
 - 第14回長崎県リハビリテーション懇話会
 - 東そのぎ在宅ケアセミナー設立
 - 厚生省長寿科学研究参画
 - 大村市ケアマネジメント研究会開催
 - 在宅ケア連絡会（札幌）の紹介
 - 北九州市での地域リハ活動 など
-

私の地域リハビリテーションの軌跡

医学展

1974 長崎大学整形外科
(10年間勤務)

1990 国立長崎中央病院
現長崎医療センター
(8年間勤務)

1998 国立療養所長崎病院
(4年間勤務)

2002 小倉リハビリテーション病院
(10年間勤務)

大村市在宅ケアセミナー設立参画

設立経過

大村市介護用品リサイクル活動

講演会

第14回長崎県リハビリテーション懇話会

東そのぎ在宅ケアセミナー設立

長寿科学研究 (代表: 澤村誠志先生)

「在宅医療における医師会の役割」

(平成7年~9年)

大村市ケアマネジメント研究会

北九州市の地域リハ活動参画

地域リハ推進事業

在宅老人保健・医療・福祉ネットワーク推進事業
(1989-1997)

大村・東彼杵地区担当

- 地域リハ推進班（長崎県リハ協議会）
 - 医師2名・PT2名・OT2名
-

大村市在宅ケアセミナーの歩み

(医師会主導地域支援型)

平成1年4月(1989)
「大村地域医療研究会」
(ブッシュ会) 代表: 中澤和嘉

平成2年7月(1990)
「大村市地域リハ学習会」
(大地の会) 会長: 柿田京子

平成3年5月(1991)
「大村市在宅ケアセミナー」

奇数月の第3木曜日開催
会員: 200名
年会費: 10000円
市補助金: 36万円
医師会補助金: 16万円
(平成22年4月現在)

※現在県央地区の「地域リハ広域支援センター」担当

種々の活動紹介

大村地域医療研究会
(ブッシュ会)

大村市地域リハ学習会
(大地の会) 大村市在宅ケアセミナー例会



訪問看護ステーション

地域医療カンファレンス

講演会



大村市介護用品リサイクル活動 (1992. 04~)

柿田PT
(大地の会会長)

朝長医師
(3代目会長)



医師会に事務局設置。
不要になった福祉機器
を倉庫に保管しておき、
希望者に無料配達
現在は社会福祉協議会が
担当している



講演会

- 第1回 「地域包括システムと在宅ケア」
- 第2回 「今地域ケアに求められるもの」
- 第3回 「生と死を見つめて」
- 第4回 「高齢者新介護システム」
- 第5回 「佐賀市の24時間ホームヘルプ事業」
- 第6回 「地域リハにおける現在の課題」
- 第7回 「心の痛みを癒す福祉—介護の原点への問い」
- 第8回 「地域ケアとリハー—介護保険に向けて—」
- 第9回 「介護保険の進捗状況と課題」
- 第10回 「少子化・高齢化問題への取組みをデンマークに学ぶ」
- 第11回 「デンマークにおける高齢者の生き方・考え方と痴呆を含めた高齢化問題への取組み」
- 第12回 「介護保険施行1年。その現状と課題」

第14回長崎県リハビリテーション懇話会

メインテーマ：「在宅介護の未来・・・」

サブテーマ：「大村市における在宅ケア・システム作りを通して」

特別講演：「ノーマライゼーションの理念と実践」

－安心して老後を託せる地域作り－

兵庫県総合リハビリテーションセンター 澤村誠志 先生

期日：1993年11月21日

会場：大村市コミュニティーセンター

参加者：424名



澤村先生御夫妻

東そのぎ在宅ケアセミナー

活動報告書



平成10年10月
東そのぎ在宅ケアセミナー

平成7年12月4日（1995）開設

東そのぎ在宅ケアセミナー 活動報告書

はじめに 代表：岩永 紘一

1. 東そのぎ在宅ケアセミナーに思うこと
2. 東彼杵町の現状
3. 在宅老人保健・医療・福祉ケアネットワーク推進事業
4. 東そのぎ在宅ケアセミナーの設立経過と趣旨
東そのぎ在宅ケアセミナー組織図
東そのぎ在宅ケアセミナー会員会則
東そのぎ在宅ケアセミナー会員名簿
5. 編集後記

平成10年10月（1998）
東そのぎ在宅ケアセミナー

在宅ケアセミナーの関わりで在宅復帰のできた例 (medicina vol.37.no3,489-494, 2000)

症例：59歳、男性

診断：筋萎縮性側索硬化症

経過：平成8年2月頃発症

平成10年8月14日排痰不能、呼吸困難で入院

9月15日気管切開術・人工呼吸器導入

11月11日「地域医療カンファレンス」

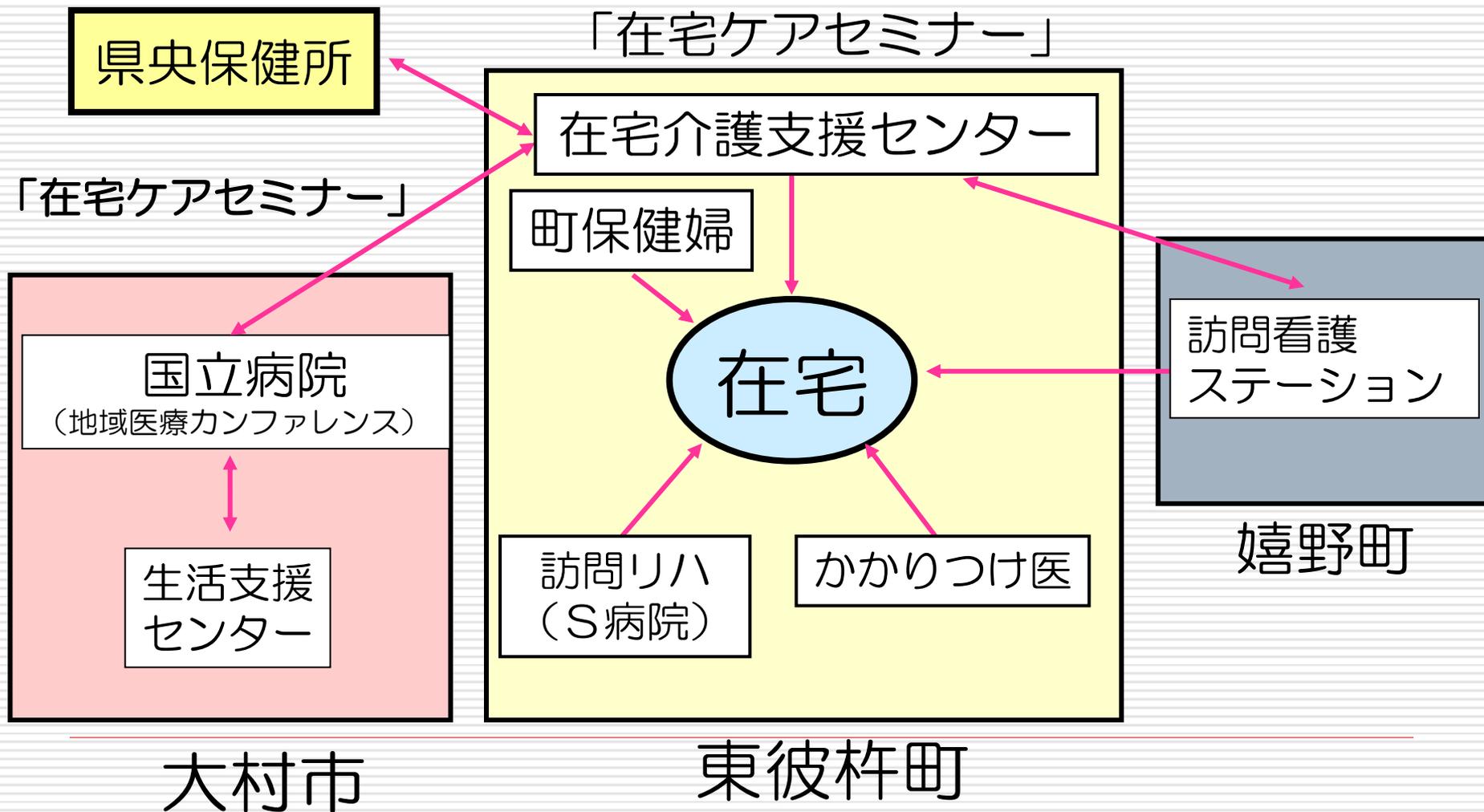
11月12日H町ケアチームとカンファレンス

平成11年1月18日最終カンファレンス

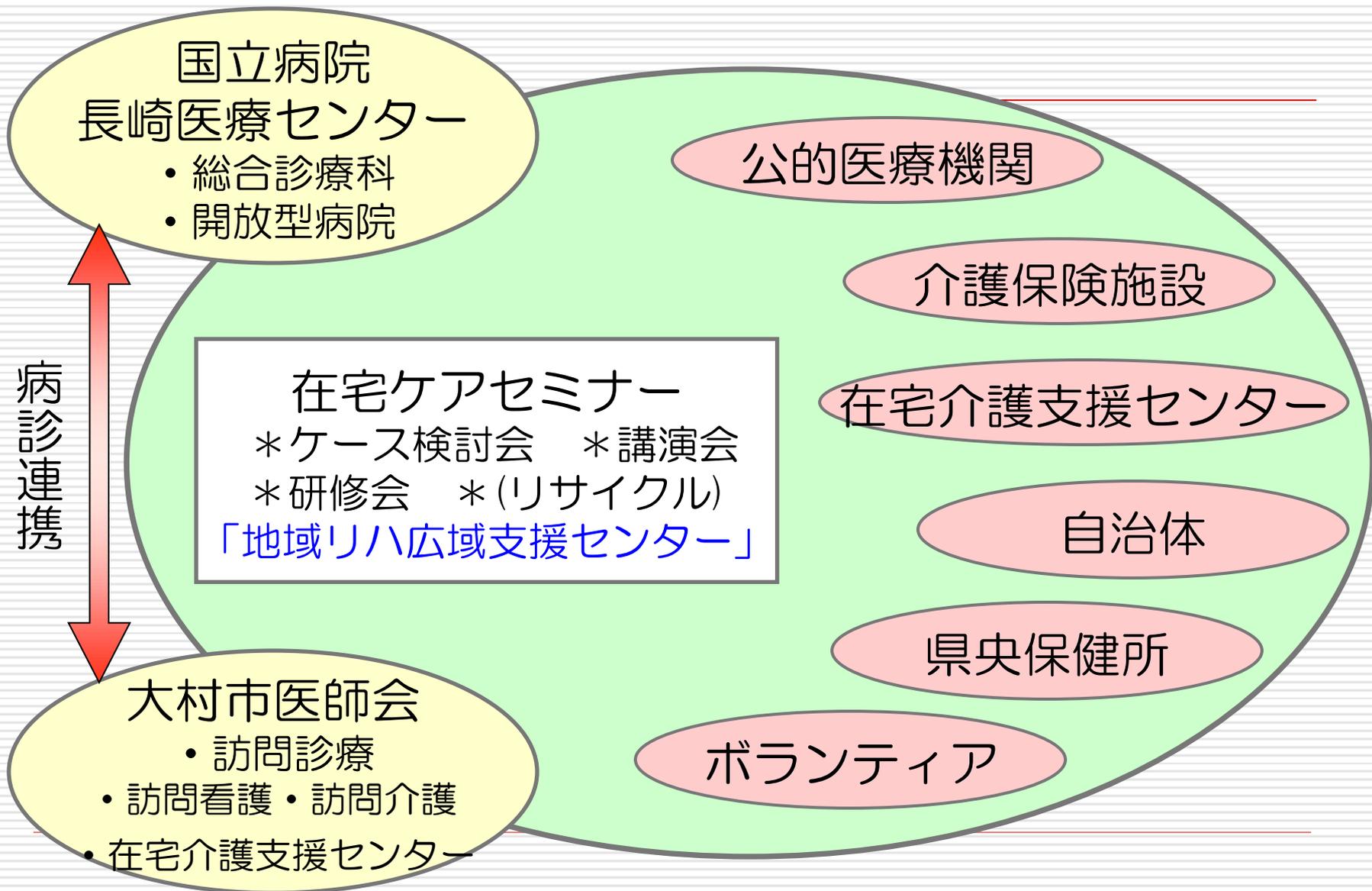
1月20日退院後約4年在宅生活継続

連携の実際

筋萎縮性側索硬化症（人工呼吸器管理）症例の在宅復帰



大村市における在宅ケア



なぜ医師会主導か

【メリット】

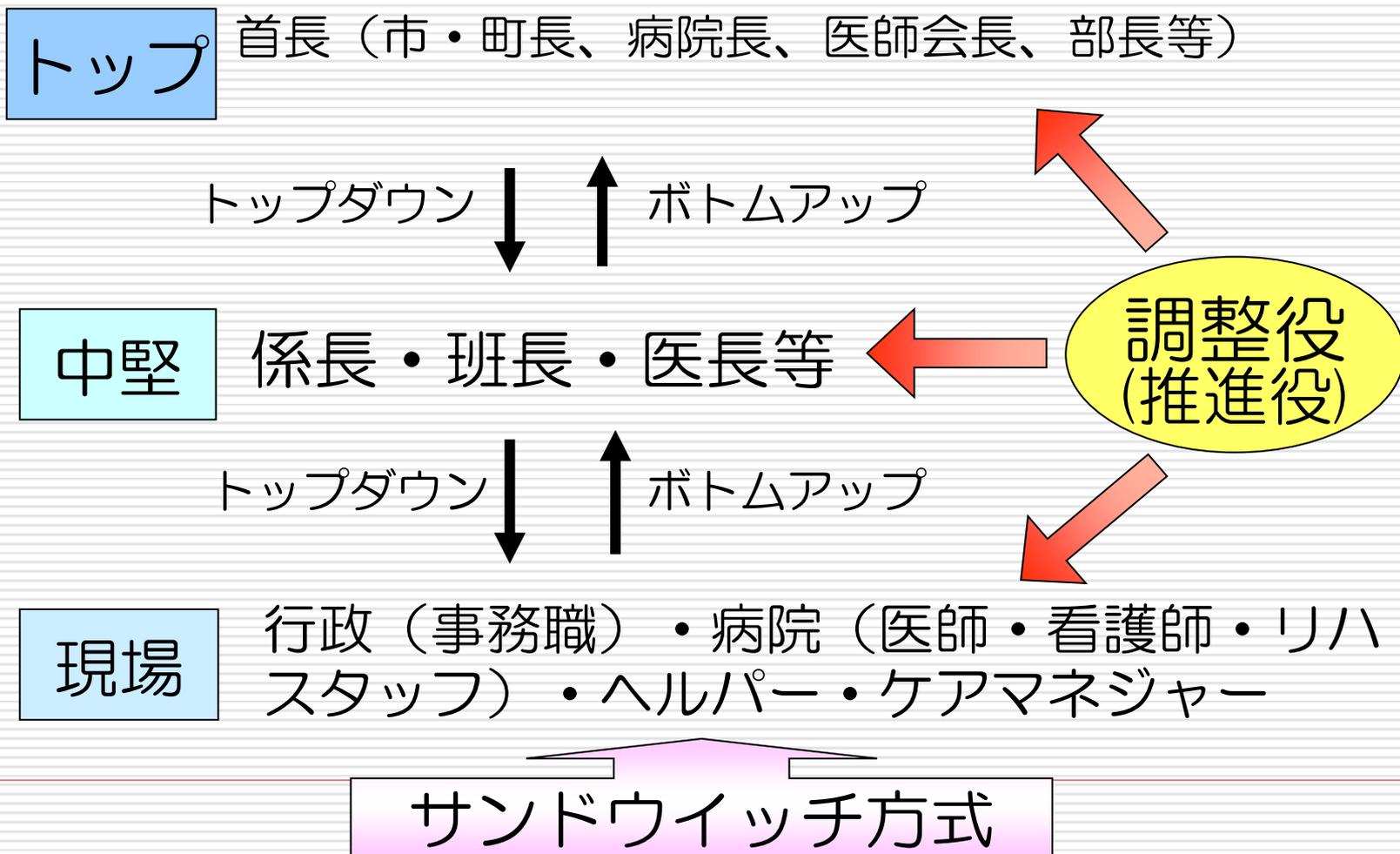
- 患者の把握が比較的容易
 - 往診機能があり、在宅ケアに関わり易い
 - 家族との関係が継続的で信頼を得易い
 - 医療サイドのリーダーシップが取り易い
 - 他の職種のコーディネータとして動き易い
 - 多くの職種を集め易い（行政も巻き込み易い）
 - 事務局としての機能がやり易い
 - 地域に密着している
-

なぜ医師会主導か

【課題】

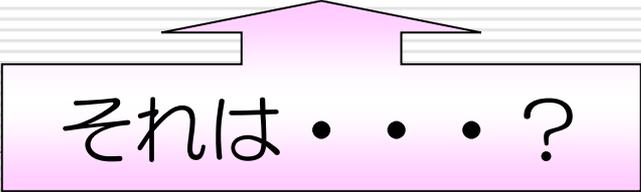
- ホームヘルパーや訪問看護との対応が難しい
 - 医師会会員相互の意思統一が図りにくい
 - 医療の問題に偏り易い
 - リハビリテーションへの理解が不十分
-

連携の推進と調整役



調整役（推進役）にふさわしい人

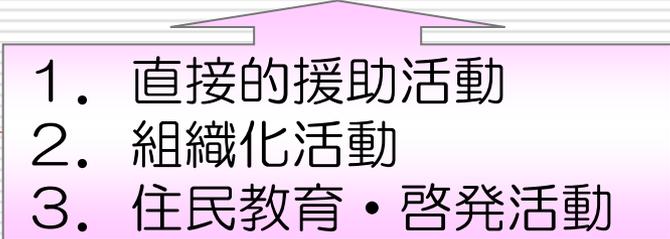
- 情熱(Passion)と使命感 (Mission)と行動力 (Action)のある人
- 現場を理解し、首長にも話のできる人
- 利害のからまない人
- 関係者の主体性を引き出し、裏方に徹する事のできる人
- チームワークを大切にする人 など



それは・・・？

保健・医療・福祉連携の要点

1. 定期的な交流・学習の場の設定（顔みしりになる）
→ 在宅ケアセミナー
2. 在宅ケアの目的の明確化（基本的理念の構築）
3. 在宅ケアに関わる職種間の仕事内容の理解と共同意識
（職域を越えて、時を超えて、自分が何ができるか）
4. 職種間の正確な情報交換（情報の共有）
5. 窓口の一本化
6. 広報活動：情報誌の発行（セミナー日より）
メディア活用（テレビ、新聞など）
7. イベント企画（講演会・研修会・健康教室など）

- 
1. 直接的援助活動
 2. 組織化活動
 3. 住民教育・啓発活動
-

医師会機能調査研究報告

—厚生省長寿科学総合研究報告（班長：澤村誠志）—

1. 在宅医療における医師会の役割
(第1報：平成6年2月)
 2. 在宅医療における医師会の役割研究
(平成7年11月)
 3. 大村市医師会員のケアマネジメントの実態調査
(平成7年6月)
 4. 公的3病院勤務医のケアマネジメントの実態調査
(平成7年6月)
 5. 在宅医療における医師会の役割研究
(第2報：平成8年2月)
 6. 大村市における在宅医療の現状
(平成7年6月)
-

在宅医療における医師会の役割研究

—在宅医療におけるかかりつけ医の動向—

大村市医師会：中澤和嘉・吉田俊二郎・
朝長昭光・南野毅・
藤井正博・山下直宏・
石田賢二

国立長崎中央病院：藤田雅章・向原茂明

長崎リハビリテーション学院：柿田謙三

老人保健施設「うぐいすの丘」：柿田京子

厚生省長寿科学総合研究報告・班長：澤村誠志先生（平成7年～9年）

アンケート調査

1. かかりつけ医推進モデル医師会：47

回収数：27

回収率：57.4%

2. 都道府県医師会推薦の医師会：40

回収数：25

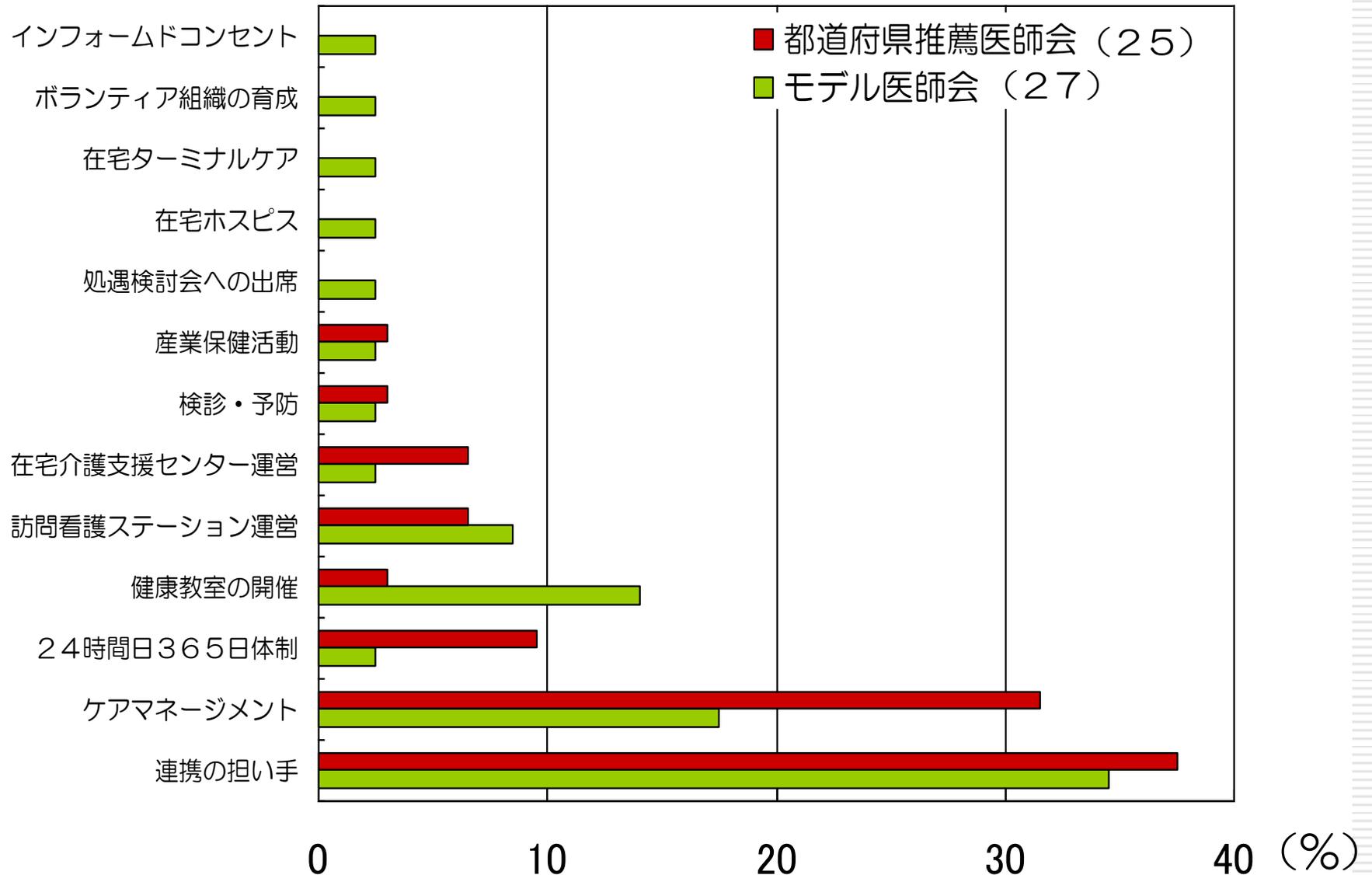
回収率：62.5%

アンケートの内容

1. 取り組みの内容
 2. 紹介・普及方法
 3. 機能を高める方法
 4. 連携の職種
 5. 連携の機関
 6. 連携のきっかけ、場
 7. かかりつけ医としての役割
-

かかりつけ医の役割

(重複回答あり)



在宅ケアシステムにおける 医師会の役割

1. 在宅医療の担い手
 2. 医療・保健・福祉の担い手
 3. ケアコーディネーター
 4. ケアサービスの提供
 5. 24時間のサービスの基盤整備とサービス提供
 6. 在宅ターミナルケア
 7. 疾病管理（地域保健）
-

ケアマネジメント研究会



1998. 12. 01

大村市在宅ケア 活動報告書

— 大村市在宅ケアセミナー —

平成30年10月

大村市在宅ケアセミナー

はじめに：会長 早田 正裕 先生

1. 大村市の現状
2. 在宅ケア大村市医師会の活動
3. 大地の会活動報告
4. 大村市在宅ケアセミナー設立経過

と主旨

1) 誕生の経過

2) 活動

- ①大村市在宅ケアセミナー
- ②推進委員会代表者会議
- ③講演会
- ④介護用品リサイクル活動経過報告
- ⑤褥創介護の手引き
- ⑥ケースカンファレンス

5. 大村市医師会訪問看護ステーション

6. 関連活動

- ①地域リハビリ活動
- ②長崎県リハビリテーション懇話会
- ③大東市を視察して
- ④ドイツ・デンマーク・オランダの
障害者・高齢者ケアの現状視察報告
- ⑤訪問看護に取り組んで（大村市立
病院コスモス会）
- ⑥KTN高齢化社会キャンペーン

7. 大村市在宅ケアセミナー会員名簿

8. 大村市在宅ケアセミナー会員規約

9. 大村市における在宅ケアシステム

10. 編集後記

大村市在宅ケアセミナー ～10周年をむかえて～

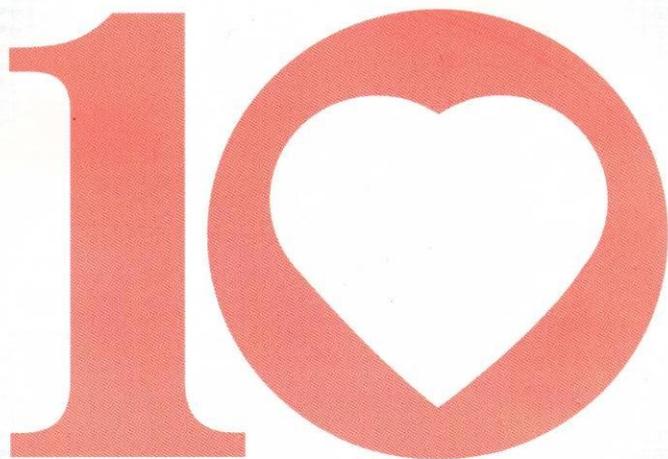
はじめに

大村市在宅ケアセミナー会長：朝長昭光先生

祝辞

大村市長：甲斐田国彦氏

大村市医師会副会長：長崎省吾先生



第1章 はじめに

第2章 大村市の概況

第3章 活動実績

第4章 関連事業とその連携

第5章 思い出

第6章 業績集及び出版物

第7章 会員会則及び名簿

平成14年3月

大村市在宅ケアセミナー

編集後記

在宅ケアセミナー推進のメリット

(長崎医療センター診療部長：向原 茂明先生)

1. 地域連携・病診連携

医療・保健・福祉の関係者が仲良し（顔見知り）になったこと。

2. 地域住民の意識改革

在宅に関わるスタッフの意識改革と技術の進歩。

3. ボランティア運動の推進

介護用品リサイクル運動の展開。

4. 介護の質の向上

県下初の医師会立の訪問看護ステーション開設。

ボランティアで勉強会を開き質を高めている。

先達からのメッセージ

- 「会員各自がこのセミナーの主役であり、会員全員が同じレベルに立ってこのセミナーを動かしているのです」（初代会長：早田正裕先生）
 - 「隗（カイ）より始めよ」（3代目会長：朝長昭光先生）
 - 「継続は力なり」、「酒を飲めば皆、兄弟姉妹親子身内」、「美しい譲り合い」（大村リハ学院PT：柿田謙三さん）
-

最近の活動状況視察（2010年6月）

（老健うぐいすの丘副施設長：柿田京子さんインタビュー）

ネットワークの線が太くなった！

- 行政との連携良好（保健福祉部長：保健師）
- 広域支援センターの機能が有効（医師会立）
：協力病院体制・専門部会（連携パス）など
- あじさいネットワーク（ホームページ）
- セミナーだより（ホームページ）
- 介護連絡ノート（市より配布）
- 介護技術研修会
- 症例検討会（地域包括支援センター＋ケアマネ連絡協議会）
- 地域福祉計画ワーキンググループ参画 など

全国地域リハビリテーション合同研修会

—在宅ケア連絡会の活動から、地域リハビリ連携を考える—

「在宅ケア連絡会の発足と経過」

坂本医院 坂本 仁

2010.06.26 札幌（ポルト）

札幌市の人口：1,906,141人（2011.12.31）
行政区分：10区

札幌市医師会による検討の歴史

(坂本 仁)

1. 平成5年 医療システム検討調査委員会
札幌市における要キュア、ケア在宅高齢者、療養者にとって望ましい在宅療養の支援システムの構築が目標とされた。
 2. 平成7年 在宅療養支援員会の発足
 3. 平成8年3月 在宅療養等支援協力医療機関名簿の発行（札幌医師会）
 4. 平成9年3月 在宅療養支援システム構想
-

西区 在宅ケア連絡会

(坂本 仁)

1. 西区内に居住する患者のうち、在宅療養を希望する人々の在宅療養推進のための連絡調整をはかる会議。
 2. 医療・保健・福祉の三者およびMSWなどが集まり一人一人の患者について、実際的な検討を行い、実のある結論が出るようにする。
 3. できることから始める。しかしながら、地域ケアネットワーク形成を目標にする。
-

医師会主導地域支援体制への想い

大村市在宅ケアセミナー（人口9万人）
の連携モデル

北九州市（人口98.5万人）で
形にできないか

集団（人口）はどれ位ま
で
可能か？

7区に分かれている
（人口7.5～26万人）



北九州市概要 (2010. 04)

人口：983, 450人
(県：5, 061, 315人)

高齢化率：25. 3%
(県：20. 4%、全国：23. 1%)

医療機関：

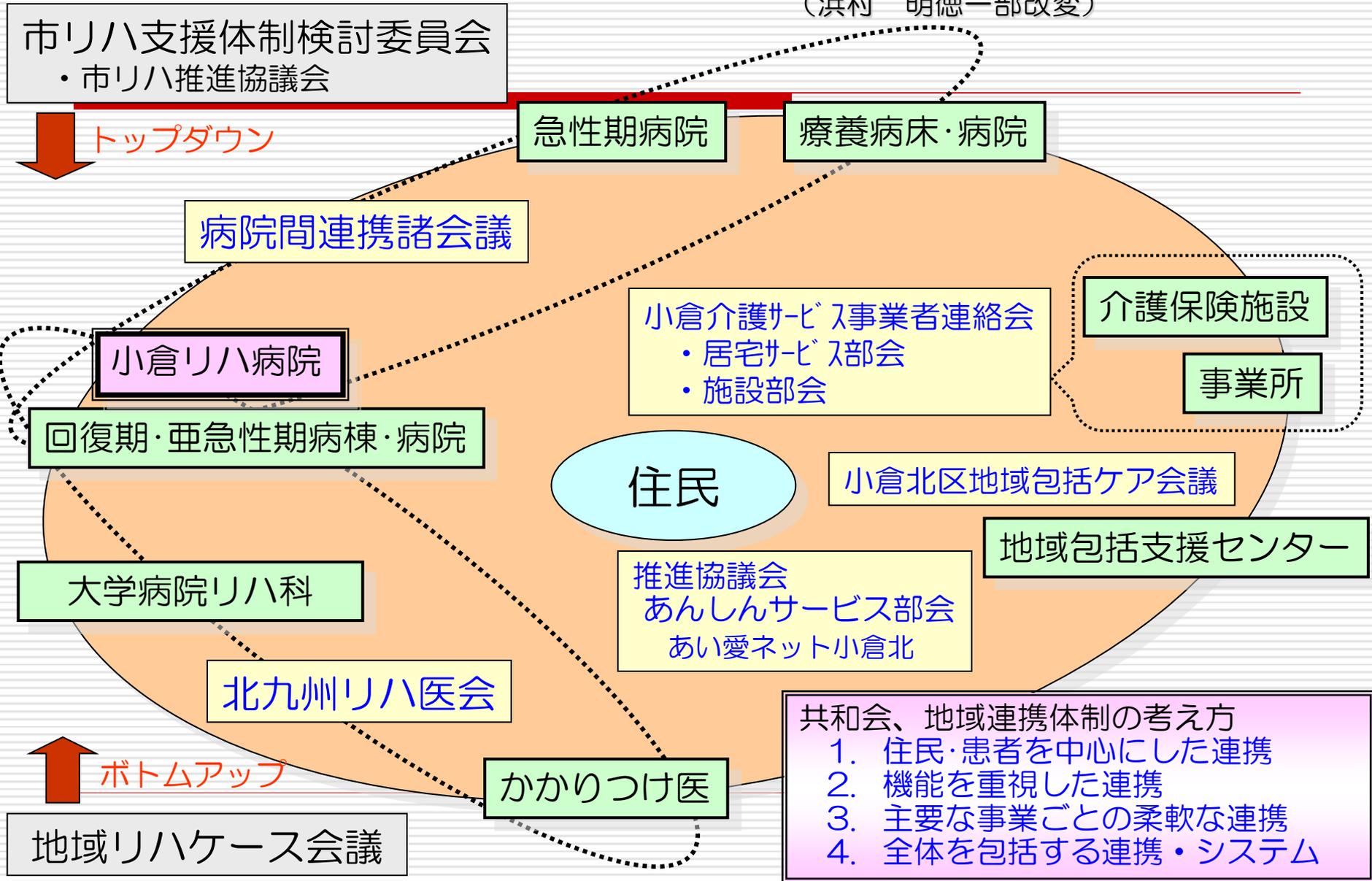
病院 104 (20, 935床)
診療所 995 (医師会員：1788人)
歯科 671

回復期病院 14 (835床)
＜85. 2床/人口10万人＞
(2009. 01)



当組織が参画する連携活動

(浜村 明德一部改変)



北九州リハビリテーション医学会

かかりつけ医のリハ理解促進「北九州リハ医学会」

第1回北九州リハビリテーション医学会(06.01.19)

会長：産業医科大学リハ科教授 蜂須賀研二先生

特別講演1：「脳卒中リハビリテーションの新展開」

慶應大学リハ科教授 里宇明元先生

特別講演2：「脳梗塞：治未病を目指して」

九州大学病体機能内科助教授 井林雪郎先生

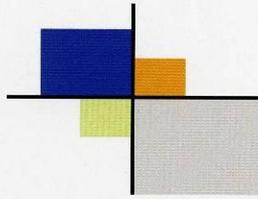
最近の活動・・・



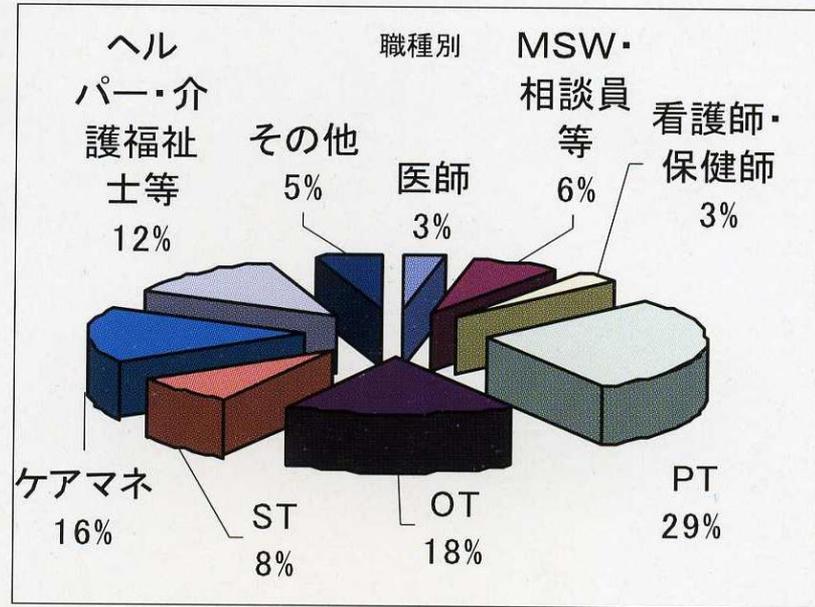
厚生労働省老人保健健康増進等事業

「介護保険制度におけるリハビリテーションの効果的実施のための
かかりつけ医の役割検討事業」

- 医師会会員のリハに関する意識調査
- e-learningコンテンツ作成



北九州市における 地域リハビリテーションの取り組み



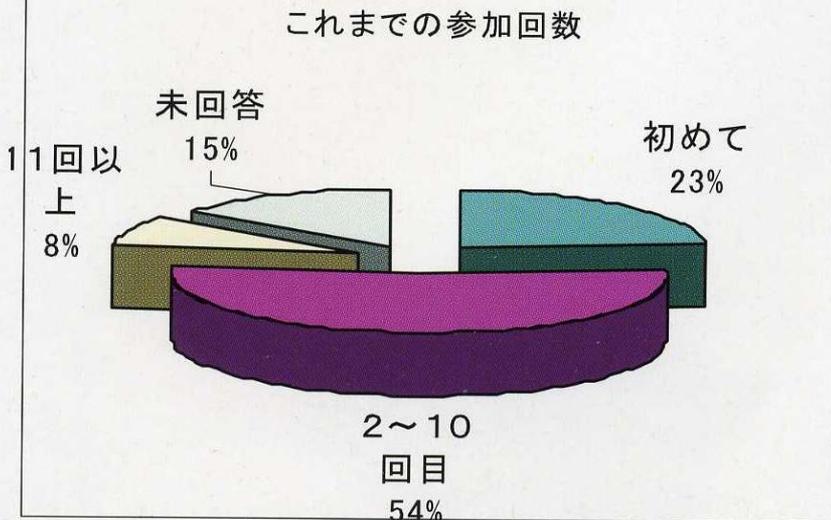
＝もくじ＝

I 「地域リハビリテーションケース会議」座談会	1
II リハビリテーションに関する市民意識調査	14
III 区リハビリテーション連絡協議会の取り組み	15
IV 医療機関相互のパートナーシップ構築	17

地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活に関わるあらゆる人々や機関、組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言います。

(日本リハビリテーション病院・施設協会の定義より)

北九州市保健福祉局



北九州市地域リハケース会議



第21回北九州市地域リハケース会議
— 障害者の就労支援について —
(実務者事例検討会)

2007.07.09

「くらし」を支える地域の幅広い連携

平成18年度 第18回 地域リハビリテーションケース会議

今回は、「壮年期片麻痺患者の社会参加に向けた支援」について検討します。

＜今回のケースのポイント＞

入院中から外来リハへ移行していくそれぞれの場面において、いかにポイントを押さえて適切なリハアプローチを行っていくか。社会生活の自立、社会参加、職場復帰へ向けたリハビリテーション（生活力を蓄えるためのアプローチ）について、ケースを通して一緒に考えていきましょう！！

- 本人、家族、職場に対してどのような働きかけをするのか？（障害受容を含めた検討）
- 外来リハの役割、目的はどこにあるのか？ ……など

医療と福祉関係者がお互いに連携し、考えていくための事例です。

対象

医師、看護師、保健師、PT、OT、ST、MSW、ケアマネージャー、ヘルパー等
障害者や高齢者等を支援する保健・医療・福祉関係者、本人、家族など
も参加できます。

日時

平成18年9月28日（木） 18:30～20:30

無料

場所

総合保健福祉センター（アシスト21）2F 講堂

- 医療から介護、福祉に及び幅広い連携（行政も、民間も一緒に）
- 地域に何があり、誰がいるかがわかる
- リハ・ケアの基本的な考え方を理解
- 標準的なサービスの流れを知る

地域リハビリテーションケース会議 資料集 No. 9



- 情報はまとめて資料として配布
- 事務局は「市」、事務局が大変
- 運営は委員会

※アシスト21の駐車場は救急患者さん用です。会場へ行く際は、公共交通機関の
※お申し込みは裏面FAXにてお願いします。

当組織が参画するネットワーク活動



小倉北区地域ケア会議



地域ケア研究会
あい愛ネット小倉北



機関誌



小倉介護サービス
事業者連絡会

市民への啓発活動

地元での啓発活動

ふれあいネットワーク
きたきゅうしゅう
市社協
創立60年
地域のリハビリから

No. **61**
平成18年11月1日号

●発行 / 北九州市社会福祉協議会
●発行所 / 岡田 光由
〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1-6
TEL.093-882-4401 FAX.093-882-3579
E-mail: kitakyu-syakyo@hkg.odn.ne.jp

連載




老人大学の1日施設内研修



地域福祉活動に長年にわたって貢献された
ル... 認められました。
地域のリハビリからみ
「伸寿

みたまちづくり

ひと&ひと
HITO&hito

リハビリテーションを
支援する体制づくり
～北九州市保健福祉局～

高齢化や脳卒中などの病気でリハビリテーショ
ンが必要とする高齢者が増えています。
北九州市では、こうした高齢者や障害のある
が、住み慣れた地域で、安全に
活を送ることができ
が密に

★リハビリから見た「いきいき生活」

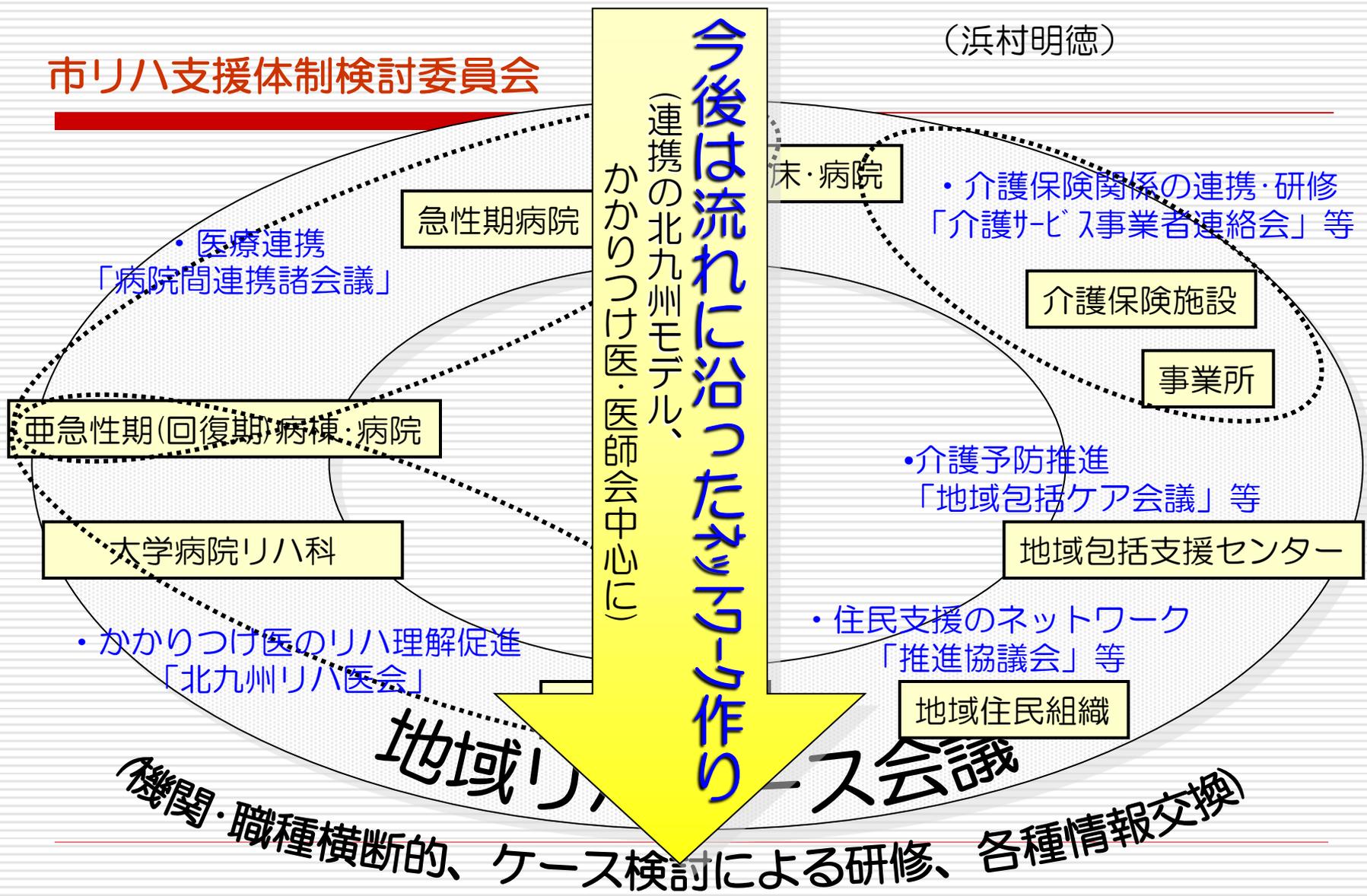
元気な時は、生活習慣病の予防とかで医療保険
を利用できます。介護保険では、介護予防という
事業が始まりました。大きな病気にかかった時に
は、病院でなるべく早くリハビリを始めましょ
北九州は、医療面では、施設数も中身
スト3に入るぐらい充実
にあつた

方々を表彰する記念式典がさる9月9日ウエ
「たまちづくり」というテーマで小倉リハビリ
苑」施設長 浜村 明德氏にお話いただき、

北九州におけるネットワークづくりの試み

市リハ支援体制検討委員会

(浜村明德)



今後は流れに任せたネットワーク作り
(連携の北九州モデル、
かかりつけ医・医師会中心に)

急性期病院

・医療連携
「病院間連携諸会議」

亜急性期(回復期)病棟・病院

大学病院リハ科

・かかりつけ医のリハ理解促進
「北九州リハ医会」

床・病院

・介護保険関係の連携・研修
「介護サービス事業者連絡会」等

介護保険施設

事業所

・介護予防推進
「地域包括ケア会議」等

地域包括支援センター

・住民支援のネットワーク
「推進協議会」等

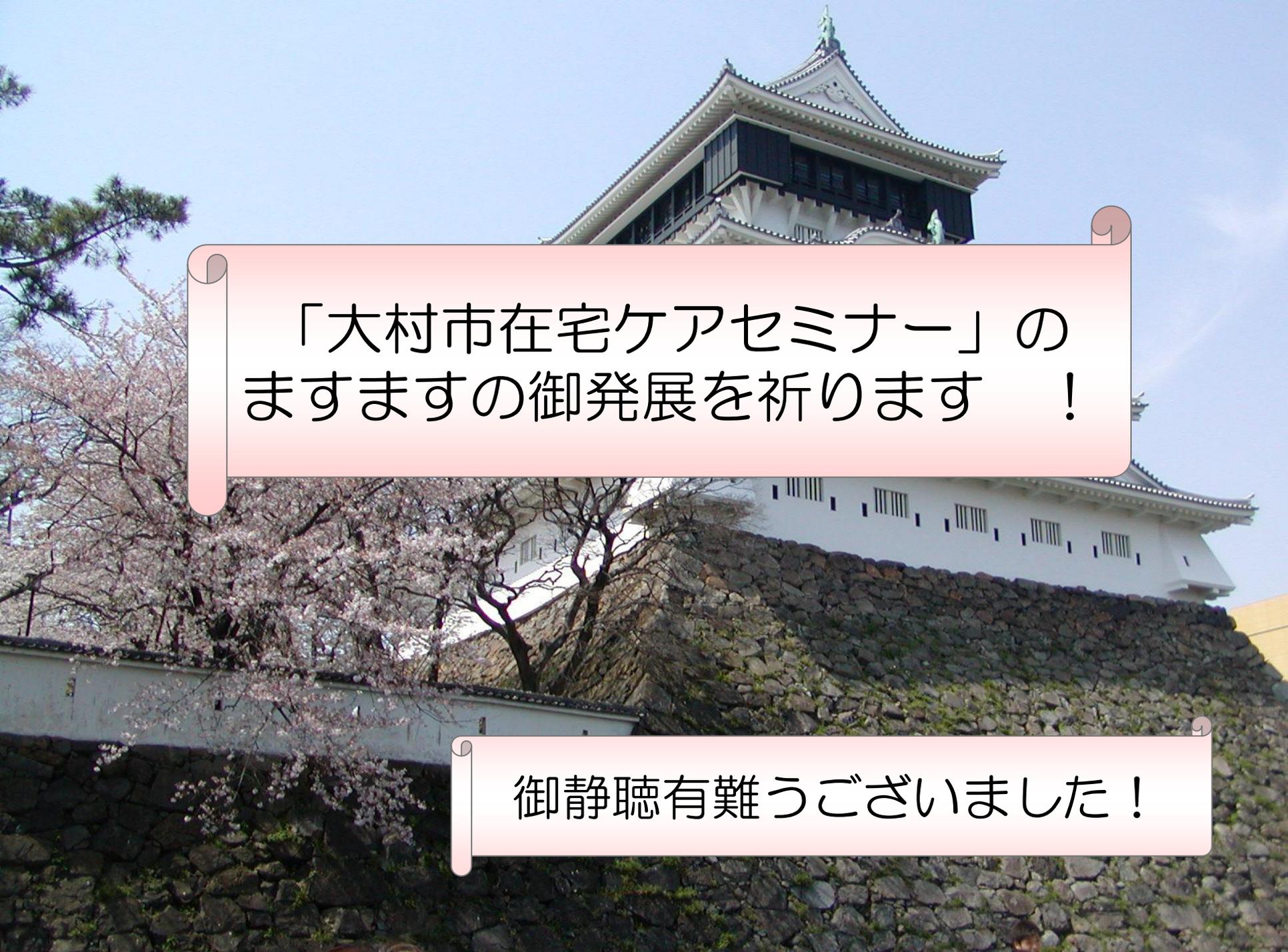
地域住民組織

地域リハサービス会議

機関・職種横断的、ケース検討による研修、各種情報交換

大村市在宅ケアセミナーへの期待

1. 医師会主導地域支援型の継続
医師会の先生方のリーダーシップに期待します。
 2. Innovation（革新）の継続
Endless（際限のない）な取り組みを期待します。
 3. 大村市よりジャパンモデルを日本、世界に発信しよう。
もっとアピールしましょう。
 4. Passion（情熱）とMission（使命感）とAction（行動力）
を大切に頑張りよう。
あらゆる職種の皆さんに元気を注いでください。
-



「大村市在宅ケアセミナー」の
ますますの御発展を祈ります！

御静聴有難うございました！